

「山都町の農業の良さを生かした効率のよい町おこしの推進」について



清和中学校
2年 石井 智大 議員

問 少子高齢化が進む中、若い人材を町外から呼び込む取組を町全体で進めていく事が大切だと思います。山都町は農業が盛んですが、農家の高齢化が進み、使われなくなった農地が増えているように思えます。この使われなくなった農地を買い取り、町外の人向けの農業体験を行ったり、田畑のレンタルを行ったりして利用する取組を提案します。将来、農業をしたいという人や、移住を考えている人達が、この取組に参加してもらうことで、農業体験を通じて山都町の魅力を知ってもらい、山都町に移住するきっかけになるのではないのでしょうか。

答 農林振興課長

都会で暮らす人たちが一定期間滞在し、働いて収入を得ながら、地域の人たちとの交流等を通して農家の生活を体験し、地域住民との関わりを深めるワーキングホリデーというものがあります。山都町は有機農業の先進地であり、県外から山都町で有機農業を目指して入ってこられる方もたくさんおられます。まずは、山都町に来て頂いて、町のいい所を知ってもらうため、山都町版のワーキングホリデーを今後できないか協議を進め移住定住並びに農地の有効利用を図っていきたいと思います。

問 山都町の少子高齢化を食い止め、若者も高齢者も元気に暮らせるようにする案を2つ提案します。1つ目は、若者を山都町に残す工夫です。若者が働ける場所を作るため、IT関連企業やベンチャー企業、工場などを誘致し、若者にとって魅力ある町づくりをしてみたいのでしょうか。2つ目は、生涯学習の充実です。移動式のダンス教室などを作り、矢部・清和・蘇陽などを移動しながら各地区で行うことです。子どもやお年寄りが活発に体を動かす機会になり、体力向上や健康の保持につながると思います。

答 企画政策課長

IT関連企業やベンチャー企業などの誘致につきましては、光情報通信基盤が整備され、平成29年にはIT関連会社が山都町に会社設立をされ雇用も生まれております。また、旧白糸第一小学校をサテライトオフィスとしても活用できるよう整備を行ったところで、企業誘致に繋がるよう取り組んでいきます。生涯学習につきましては、提案されております移動式のダンス教室を含め、子どもから高齢者まであらゆる世代の方に生涯学習の機会の場を確保することが必要であると考えます。

「少子化対策」について



矢部中学校
2年 田上 椎菜 議員

「山都町の魅力をPRするイベント」について



清和中学校
1年 梶原 真之 議員（右）
2年 小坂 桔平 議員（左）

問 大勢の人に地元の料理や食材を効率よくPRすることができるマラソン大会の実施を提案します。矢部・清和・蘇陽を回るコースを設定して、名所を巡るようにしてみるのもどうでしょうか。また山都町には、清らかな自然や歴史的建造物、祭りなどがあり、PRできる観光地は多いと思います。積極的に県外や外国人に向けて、山都町の魅力をもっと発信していくと観光客の呼び込みや移住者の増加につながると思います。

答 山の都創造課長

山都町をPRするイベントとして、日向還歴史ウォークや地域の風景を楽しむフットパス、九州脊梁山脈トレイルランを実施しています。マラソン大会については、観光振興や地域経済の活性化に繋がる提案と考え、関係機関と協議し進めていくこととします。町のPR方法についてはホームページや観光パンフレット、イベント開催時に新聞、SNS等を利用し情報発信を行っています。移住者向けには「移住相談会」へ参加し、山都町の魅力を発信しています。情報発信やPR方法を再検討し、観光客の誘致や移住者の増加につなげていきたいと思っています。

「天候に左右されない屋内施設を併設した公園」について



矢部中学校
2年 下田 涼人 議員（右）
1年 野口 颯吾 議員（左）

問 環境と観光の両面について考えたコミュニティバスの利用促進についての提案をしたいと思います。バスを利用した回数に応じてポイントがたまり、買い物などで利用できればバスの利用者数も増えるのではないかと思います。また観光客にも距離や回数に応じてポイントが加算され、山都町の特産品や工芸品などと交換できれば、人の移動も増えると思います。さらに御船町や美里町からも観光周遊バスとして、山都町の観光スポットを巡ることができればより多くの方たちが訪れ、町の活性化にもつながると考えます。

答 企画政策課長

コミュニティバス利用促進のため、利用者、商店街、交通事業者にとってメリットのある取り組みを検討しているところです。観光周遊につきましては路線バスやタクシーを組み合わせた移動手段など、観光協会や交通事業者と連携して検討を行っていきます。利用促進の特典として「道の駅レシートラリー」など既存のイベントを町内の商店街や観光施設へ広げたり、公共交通利用者にポイントを加算するのも一つの方法であると考えます。

「ふるさと納税の活性化」について



清和中学校
2年 折尾 萌愛 議員

問 道の駅周辺に、天候に左右されない屋内施設を併設した公園を作りたいのでしょうか。様々な大会が実施され多くの方たちが山都町に足を運ぶようになると思います。また、ユニバーサルデザインの歩道や交流センターも併設し、世代を超えた様々な活動やイベントを催すことで、みんなが楽しめる交流の場所になるはずです。さらに、災害時に地域の人々の避難所としても活用できる「防災公園」としての機能を持たせることができれば、一層町に役立つと思います。

答 生涯学習課長

現在町営プールなど老朽化した施設を解体撤去し、多目的イベント広場の整備や、遊歩道の整備などの計画を策定中です。屋内施設については総合体育館の建設を予定しています。中央グラウンド周辺を町の総合運動公園と位置付け整備し、運動後に道の駅通潤橋で食事や買い物をしていただくことで、多くの人が集まる交流エリアになると思われます。ユニバーサルデザインへの配慮や防災機能を兼ね備えた施設の整備については、今後の詳細な設計の中で是非取り入れていきたいと思っています。

「コミュニティバスの利用促進」について



矢部中学校
2年 大林 千陽 議員（右）
2年 村山 遥香 議員（左）

問 ふるさと納税について、昨年の山都町と上天草市の寄付額には大きな差がありますが、山都町の返礼品が劣っている訳ではなく、山都町ならではの素晴らしい返礼品の良さを知らない人が多いからだと思います。もっと町外や県外で行われる物産イベントなどに積極的に出店するなどして、ふるさと納税と山都町の物産を知ってもらうように取り組み、その回数を増やせば更なるふるさと納税の活性化につながると考えます。ふるさと納税について、山都町としての今後の具体的な考えを教えてください。

答 山の都創造課長

昨年は農産物ブランド化協議会が主催する福岡「岩田屋」での催事などに計10回程度出店しています。東京農業大学との包括連携協定をきっかけに「東京農大収穫祭」にも出店しています。また、山都町東京事務所が平成30年に立ち上がり、「販路拡大」というテーマにも取り組んでいます。寄付を頂いた方にリピーターとなっていただく工夫や、効果的なPRにも心がけていきたいと思っています。山都町として今後の具体的な考えについては、今以上に山都町の物産を積極的に売り込み、寄付額を増加させ、経済的な波及を町内に広げることです。